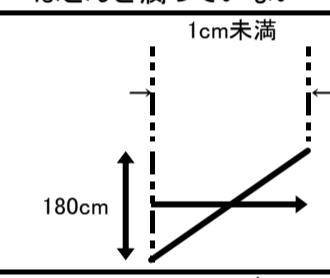
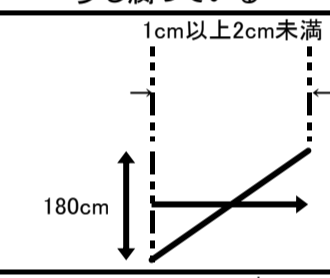
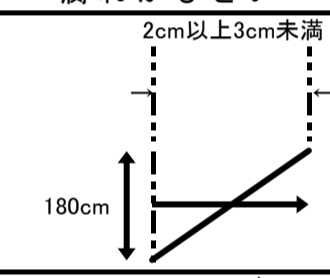
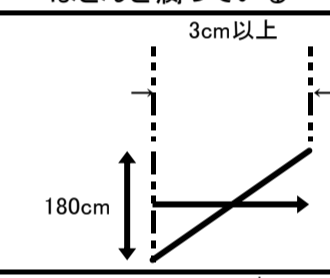
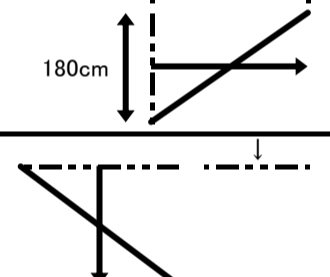
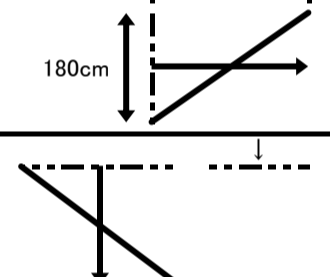
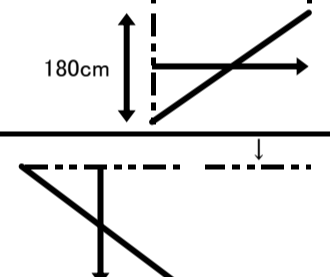
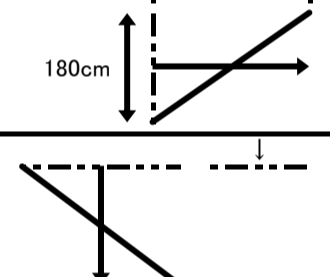
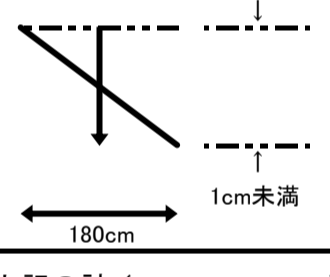
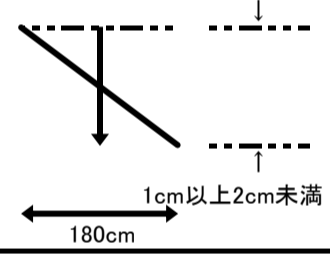
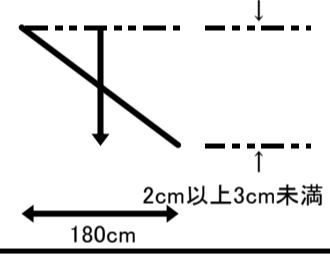
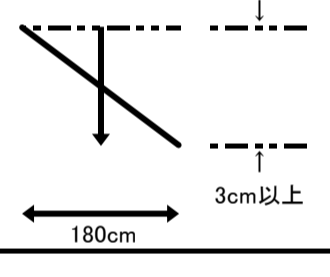
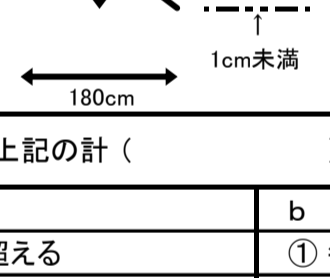
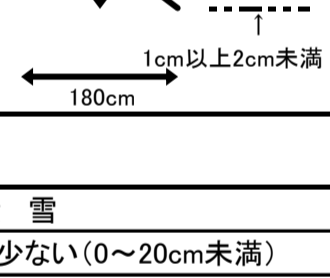
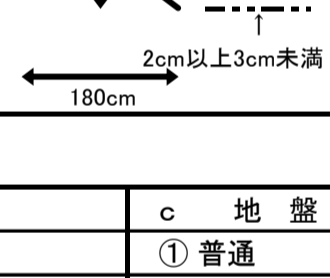
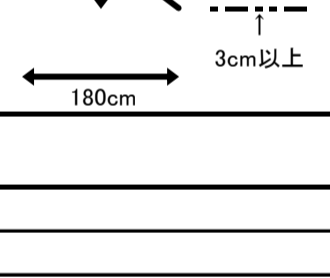


木造社会福祉施設老朽度調査表

都道府県市名 _____

(法人名) 施設名		建物の名称										
老朽度		A点 × B点 × C点 (係数) = _____ 点			調査員 職名		氏名					
A 構造耐力	区 分	a	点	b	点	c	点	d	点			
	① 基礎	布コンクリート造	15	布石積造、レンガ造	10	壺石造、壺レンガ造、壺コンクリート造	5	掘立柱木杭基礎	0			
	② 土台	15.2cm角以上	15	12.1cm角以上 15.2cm角未満	10	12.1cm角未満	5	土台なし	0			
	③ 柱	二階以上の階を有する場合一階の柱	15.2cm角以上又は 13.6cm角以上2本	20	13.6cm角以上又は 12.1cm角以上2本	15	12.1cm角未満	10	12.1cm角未満	0		
		平屋の場合の柱	13.6cm角以上又は 12.1cm角以上2本		12.1cm角以上又は 10.6cm角以上2本		10.6cm角未満		10.6cm角未満			
④ 根 継	ア 大部分(半数以上)柱を根継ぎしたことがある。 イ 小部分(半数未満)の柱を根継ぎしたことがある。 ウ 根継ぎした柱はない。		本のうち		本のうち		本 (乗率0.8) 本 (乗率0.9) (乗率1.0)					
※ 評点 上記①～③の計()点 × ④ $\begin{pmatrix} 0.8 \\ 0.9 \\ 1.0 \end{pmatrix}$ + 50点 = ()点												
B 保 存 度	区 分	a	点	b	点	c	点	d	点			
	① 経過年数	5年未満	5	5年以上18年未満	3	18年以上30年未満	2	30年以上	0			
	② 基礎の不同沈下	ない	6	ほとんどない	4	ある(見てわかる程度)	1	ひどい	0			
	腐 朽 度	③ 外壁の土台	ほとんど腐っていない	7	少し腐っている	4	腐れがひどい	1	ほとんど腐っている	0		
		④ 外壁の柱	ほとんど腐っていない	7	少し腐っている	4	腐れがひどい	1	ほとんど腐っている	0		
		⑤ 梁(はり)	ほとんど腐っていない	5	少し腐っている	3	腐れがひどい	1	ほとんど腐っている	0		
	傾 斜 度	⑥ 柱	ア 梁行(はりゆき)		20		15		10		0	
			イ 桁行(けたゆき)		15		10		5		0	
		⑦ 横架材	ウ 梁行(はりゆき)		20		15		10		0	
			エ 桁行(けたゆき)		15		10		5		0	
※ 評点 上記の計()点												
C 外 力 条 件	a 海岸からの距離			b 積雪			c 地盤					
	① 海岸からの距離が8kmを超える			① 毎年少ない(0~20cm未満)			① 普通					
	② 海岸から4kmを超える8km以内			② 毎年かなり積もる(20~100cm未満)			② やや軟弱					
	③ 海岸から4km以内			③ 毎年ひどく積もる(100cm以上)			③ 軟弱					
※ 評点 (外力条件分類番号abc) 下記(附表)より 率:												
(附表)	率	1.00	0.98	0.96	0.94	0.92	0.90	0.88	0.86	0.84	0.82	0.80
	外力条件 分類番号	①①①	②①①	①①② ①②① ③①①	②①② ②②①	①①③ ①②② ①③① ③①② ③②①	②①③ ②②② ②③①	①②③ ①③② ③①③ ③②② ③③①	②②③ ②③②	①③③ ③②③ ③③②	②③③	③③③

- (注) 1 この調査表は、老朽施設と認められる建物ごと(棟別)に作成すること。
 2 A及びB欄の記入は、各区分ごとに該当点数を○で囲み、それぞれの評点を所定欄に記入すること。
 3 C欄は、a、b、cの各分類ごとに該当する事項の分類番号の組み合わせにより附表から係数を求めて記入すること。
 なお、外力条件の地盤のうち「軟弱」とは、腐植土、泥土、沼土及び沼土等を埋めてから30年に満たないところであり、「やや軟弱」とは、軟弱地盤であるが、埋立ててから30年経過したもの又は地質的な原因で普通地盤より軟弱なものである。
 4 傾斜度の測定法は、次によることとする。
 (1) 柱の傾斜度は、最も傾斜のひどい柱の床180cmの長さについて垂直線を基準にして測定すること。
 (2) 横架材の傾斜度は、最も傾斜のひどい梁と桁のそれぞれ180cmの長さについて水平線を基準に測定すること。